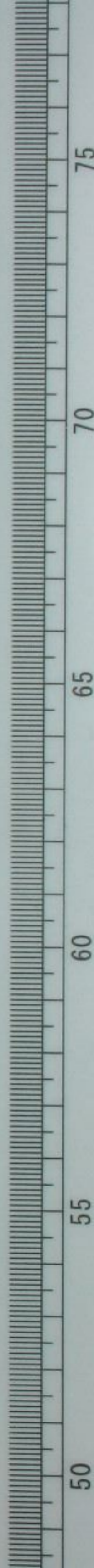




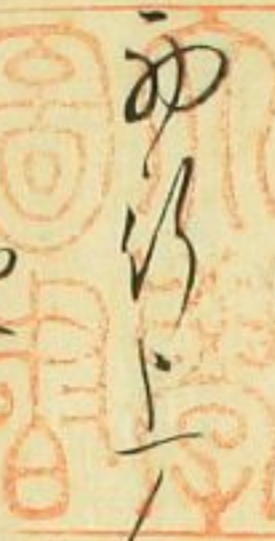
西行談抄

4756
~ 4



西河上人読抄

西河上人二見酒より為供り多味淡茶抄



昭和十六年一月十一日
尾野貴英氏贈

いさよとてむらじふ事大難を言る時、
るるゆゆらむ事難也。やとせなふ事、
口とてはあはて事をもあはゆゑに、
ふはつ子も何となくもなり。和歌のたつた文を
或時無事なり。或時無事なり。或時無事なり。
のりて、淡茶のりて、淡茶のりて、淡茶のりて。

事世近不ありと子文と屋外の口をきき
いとおしあふふ不きくそつうたうと西歌の
詩皮をふ出忘つううと西歌をいへり少詩
句詩をうと同一忘は上人云初歌うふり
詠句詩を和采吉を采入音法風詩中
しく清なり中少も雜部とあり可見但采
少もいあらは無新の音かあり古今法音
於此をそとを新と詠と句と采を採地
と後小抄の心と風採入此記述とて
傳りし小抄の音も入歌の音も採入本抄
出る此と又中一と一不采と一とらふ
ととがしめわぬ音と
まを履もいへり音と採
各抄し一月一音と採りは
此音と一と一といふと云はしり
上人無と一と一といふと云はしり
後記候ふと一於是は引者
や後記候ふと一と一といふと云はしり

河のほとり人よむきぬ舟に
らぬ舟はさき舟にうらやま
くはさしむるまゝのまゝ
まゝのまゝのまゝのまゝ
うらやまのまゝのまゝのまゝ
河のほとり人よむきぬ舟に
らぬ舟はさき舟にうらやま
くはさしむるまゝのまゝ
まゝのまゝのまゝのまゝ
うらやまのまゝのまゝのまゝ

舟のまゝのまゝのまゝのまゝ
うらやまのまゝのまゝのまゝ
河のほとり人よむきぬ舟に
らぬ舟はさき舟にうらやま
くはさしむるまゝのまゝ
まゝのまゝのまゝのまゝ
うらやまのまゝのまゝのまゝ
河のほとり人よむきぬ舟に
らぬ舟はさき舟にうらやま
くはさしむるまゝのまゝ
まゝのまゝのまゝのまゝ
うらやまのまゝのまゝのまゝ

とけく新島もかれはわが
まゝに後のまゝにわが
まゝにわがまゝにわが
まゝにわがまゝにわが
まゝにわがまゝにわが
まゝにわがまゝにわが
まゝにわがまゝにわが
まゝにわがまゝにわが

いなりと安んじし人我の
その月夜はまぐらふ
いなりと安んじし人我の
その月夜はまぐらふ

あつらふかたふし馬の
いく夜移るあなは
松一宿もよほは
向後まはれぬ
誰ははらふ
あつらふかたふし馬の
いく夜移るあなは
松一宿もよほは
向後まはれぬ
誰ははらふ
あつらふかたふし馬の
いく夜移るあなは
松一宿もよほは
向後まはれぬ
誰ははらふ

いふはつとてはなむとてなむとて

或る事ある人々ありて和泉の流海あり

ふふは人々のいふにて流海は昔よりあり

たうとていふにて流海は昔よりあり

たうとていふにて流海は昔よりあり

いふはつとてはなむとてなむとて

福島の流海は昔よりあり

たうとていふにて流海は昔よりあり

いふはつとてはなむとてなむとて

いふはつとてはなむとてなむとて

いふはつとてはなむとてなむとて

いふはつとてはなむとてなむとて

いふはつとてはなむとてなむとて

いふはつとてはなむとてなむとて

いふはつとてはなむとてなむとて

いふはつとてはなむとてなむとて

いふはつとてはなむとてなむとて

いふはつとてはなむとてなむとて

清から作りし母の... 白... 羽の... 産
 も... 思ふ... 物のも
 の... 母の... 物のも
 奇... 母の...
 ... 母の...
 ... 母の...
 ... 母の...
 ... 母の...
 ... 母の...

... 母の...
 ... 母の...
 ... 母の...
 ... 母の...
 ... 母の...
 ... 母の...
 ... 母の...
 ... 母の...

... 母の...
 ... 母の...
 ... 母の...

いささかと初音の音はなほなりとて
あはれとて又の日はつらつらとあはれ
なすもつらやとてささくゆくとつら
はくもつらいとてつらつらとあはれ
はくもつらいとてつらつらとあはれ
あはれつらつらとてつらつらとあはれ
あはれつらつらとてつらつらとあはれ
あはれつらつらとてつらつらとあはれ

昔者仲つとて陰奥のふとつとて
あはれつらつらとてつらつらとあはれ

あはれつらつらとてつらつらとあはれ
あはれつらつらとてつらつらとあはれ
あはれつらつらとてつらつらとあはれ
あはれつらつらとてつらつらとあはれ

あはれつらつらとてつらつらとあはれ
あはれつらつらとてつらつらとあはれ
あはれつらつらとてつらつらとあはれ
あはれつらつらとてつらつらとあはれ

いふこゝは^{（一）}に^{（二）}を^{（三）}む^{（四）}か^{（五）}の^{（六）}て^{（七）}い^{（八）}て^{（九）}し^{（十）}
ろへ^{（十一）}か^{（十二）}く^{（十三）}て^{（十四）}す^{（十五）}の^{（十六）}て^{（十七）}い^{（十八）}て^{（十九）}す^{（二十）}
ぬ^{（二十一）}い^{（二十二）}ひ^{（二十三）}ち^{（二十四）}り^{（二十五）}に^{（二十六）}く^{（二十七）}ー^{（二十八）}に^{（二十九）}く^{（三十）}
よ^{（三十一）}き^{（三十二）}な^{（三十三）}り^{（三十四）}し^{（三十五）}よ^{（三十六）}ふ^{（三十七）}の^{（三十八）}が^{（三十九）}い^{（四十）}て^{（四十一）}し^{（四十二）}
し^{（四十三）}ら^{（四十四）}い^{（四十五）}し^{（四十六）}つ^{（四十七）}の^{（四十八）}は^{（四十九）}な^{（五十）}り^{（五十一）}な^{（五十二）}
い^{（五十三）}あ^{（五十四）}ら^{（五十五）}ち^{（五十六）}な^{（五十七）}り^{（五十八）}さ^{（五十九）}ら^{（六十）}い^{（六十一）}は^{（六十二）}
は^{（六十三）}た^{（六十四）}ら^{（六十五）}の^{（六十六）}を^{（六十七）}い^{（六十八）}て^{（六十九）}は^{（七十）}す^{（七十一）}
あ^{（七十二）}ら^{（七十三）}く^{（七十四）}は^{（七十五）}な^{（七十六）}り^{（七十七）}し^{（七十八）}し^{（七十九）}
ず^{（八十）}の^{（八十一）}わ^{（八十二）}ら^{（八十三）}い^{（八十四）}は^{（八十五）}な^{（八十六）}り^{（八十七）}し^{（八十八）}
ず^{（八十九）}の^{（九十）}わ^{（九十一）}ら^{（九十二）}い^{（九十三）}は^{（九十四）}な^{（九十五）}り^{（九十六）}し^{（九十七）}

あ^{（一）}ら^{（二）}く^{（三）}は^{（四）}な^{（五）}り^{（六）}し^{（七）}し^{（八）}
ゆ^{（九）}ら^{（十）}い^{（十一）}は^{（十二）}な^{（十三）}り^{（十四）}し^{（十五）}
す^{（十六）}の^{（十七）}わ^{（十八）}ら^{（十九）}い^{（二十）}は^{（二十一）}な^{（二十二）}り^{（二十三）}
し^{（二十四）}す^{（二十五）}の^{（二十六）}わ^{（二十七）}ら^{（二十八）}い^{（二十九）}は^{（三十）}
な^{（三十一）}り^{（三十二）}し^{（三十三）}し^{（三十四）}す^{（三十五）}
の^{（三十六）}わ^{（三十七）}ら^{（三十八）}い^{（三十九）}は^{（四十）}な^{（四十一）}
り^{（四十二）}し^{（四十三）}し^{（四十四）}す^{（四十五）}の^{（四十六）}わ^{（四十七）}
ら^{（四十八）}い^{（四十九）}は^{（五十）}な^{（五十一）}り^{（五十二）}し^{（五十三）}
し^{（五十四）}す^{（五十五）}の^{（五十六）}わ^{（五十七）}ら^{（五十八）}い^{（五十九）}
は^{（六十）}な^{（六十一）}り^{（六十二）}し^{（六十三）}し^{（六十四）}す^{（六十五）}
の^{（六十六）}わ^{（六十七）}ら^{（六十八）}い^{（六十九）}は^{（七十）}な^{（七十一）}
り^{（七十二）}し^{（七十三）}し^{（七十四）}す^{（七十五）}の^{（七十六）}わ^{（七十七）}
ら^{（七十八）}い^{（七十九）}は^{（八十）}な^{（八十一）}り^{（八十二）}し^{（八十三）}
し^{（八十四）}す^{（八十五）}の^{（八十六）}わ^{（八十七）}ら^{（八十八）}い^{（八十九）}
は^{（九十）}な^{（九十一）}り^{（九十二）}し^{（九十三）}し^{（九十四）}す^{（九十五）}
の^{（九十六）}わ^{（九十七）}ら^{（九十八）}い^{（九十九）}は^{（一百）}な^{（一百一）}
り^{（一百二）}し^{（一百三）}し^{（一百四）}す^{（一百五）}の^{（一百六）}わ^{（一百七）}
ら^{（一百八）}い^{（一百九）}は^{（二百）}な^{（二百一）}り^{（二百二）}し^{（二百三）}
し^{（二百四）}す^{（二百五）}の^{（二百六）}わ^{（二百七）}ら^{（二百八）}い^{（二百九）}
は^{（三百）}な^{（三百一）}り^{（三百二）}し^{（三百三）}し^{（三百四）}す^{（三百五）}
の^{（三百六）}わ^{（三百七）}ら^{（三百八）}い^{（三百九）}は^{（四百）}な^{（四百一）}
り^{（四百二）}し^{（四百三）}し^{（四百四）}す^{（四百五）}の^{（四百六）}わ^{（四百七）}
ら^{（四百八）}い^{（四百九）}は^{（五百）}な^{（五百一）}り^{（五百二）}し^{（五百三）}
し^{（五百四）}す^{（五百五）}の^{（五百六）}わ^{（五百七）}ら^{（五百八）}い^{（五百九）}
は^{（六百）}な^{（六百一）}り^{（六百二）}し^{（六百三）}し^{（六百四）}す^{（六百五）}
の^{（六百六）}わ^{（六百七）}ら^{（六百八）}い^{（六百九）}は^{（七百）}な^{（七百一）}
り^{（七百二）}し^{（七百三）}し^{（七百四）}す^{（七百五）}の^{（七百六）}わ^{（七百七）}
ら^{（七百八）}い^{（七百九）}は^{（八百）}な^{（八百一）}り^{（八百二）}し^{（八百三）}
し^{（八百四）}す^{（八百五）}の^{（八百六）}わ^{（八百七）}ら^{（八百八）}い^{（八百九）}
は^{（九百）}な^{（九百一）}り^{（九百二）}し^{（九百三）}し^{（九百四）}す^{（九百五）}
の^{（九百六）}わ^{（九百七）}ら^{（九百八）}い^{（九百九）}は^{（一千）}な^{（一千一）}
り^{（一千二）}し^{（一千三）}し^{（一千四）}す^{（一千五）}の^{（一千六）}わ^{（一千七）}
ら^{（一千八）}い^{（一千九）}は^{（二千）}な^{（二千一）}り^{（二千二）}し^{（二千三）}
し^{（二千四）}す^{（二千五）}の^{（二千六）}わ^{（二千七）}ら^{（二千八）}い^{（二千九）}
は^{（三千）}な^{（三千一）}り^{（三千二）}し^{（三千三）}し^{（三千四）}す^{（三千五）}
の^{（三千六）}わ^{（三千七）}ら^{（三千八）}い^{（三千九）}は^{（四千）}な^{（四千一）}
り^{（四千二）}し^{（四千三）}し^{（四千四）}す^{（四千五）}の^{（四千六）}わ^{（四千七）}
ら^{（四千八）}い^{（四千九）}は^{（五千）}な^{（五千一）}り^{（五千二）}し^{（五千三）}
し^{（五千四）}す^{（五千五）}の^{（五千六）}わ^{（五千七）}ら^{（五千八）}い^{（五千九）}
は^{（六千）}な^{（六千一）}り^{（六千二）}し^{（六千三）}し^{（六千四）}す^{（六千五）}
の^{（六千六）}わ^{（六千七）}ら^{（六千八）}い^{（六千九）}は^{（七千）}な^{（七千一）}
り^{（七千二）}し^{（七千三）}し^{（七千四）}す^{（七千五）}の^{（七千六）}わ^{（七千七）}
ら^{（七千八）}い^{（七千九）}は^{（八千）}な^{（八千一）}り^{（八千二）}し^{（八千三）}
し^{（八千四）}す^{（八千五）}の^{（八千六）}わ^{（八千七）}ら^{（八千八）}い^{（八千九）}
は^{（九千）}な^{（九千一）}り^{（九千二）}し^{（九千三）}し^{（九千四）}す^{（九千五）}
の^{（九千六）}わ^{（九千七）}ら^{（九千八）}い^{（九千九）}は^{（一万）}な^{（一万一）}
り^{（一万二）}し^{（一万三）}し^{（一万四）}す^{（一万五）}の^{（一万六）}わ^{（一万七）}
ら^{（一万八）}い^{（一万九）}は

事御了秘教の事しあはるる事と
事御了秘教の事しあはるる事と

事御了秘教の事しあはるる事と

事御了秘教の事しあはるる事と

事御了秘教の事しあはるる事と

事御了秘教の事しあはるる事と

事御了秘教の事しあはるる事と

事御了秘教の事しあはるる事と

事御了秘教の事しあはるる事と

事御了秘教の事しあはるる事と

事御了秘教の事しあはるる事と

事御了秘教の事しあはるる事と

事御了秘教の事しあはるる事と

事御了秘教の事しあはるる事と

あはれなるはるのうらみ
しるもほろひてふしむる
興ありて

あはれなるはるのうらみ
しるもほろひてふしむる
興ありて

あはれなるはるのうらみ
しるもほろひてふしむる
興ありて

あはれなるはるのうらみ
しるもほろひてふしむる
興ありて

あはれなるはるのうらみ
しるもほろひてふしむる
興ありて

あゝと形くみしつゝはたか大井川
このおとよき雨も物とらも

世帯は中初を定頼舟の二條院は内大井河
乃り舟は分渡せしむるなり時以東は秋をいつり
秋といふともありせん中初を秋とせしむる
おのつともあつたてあふと舟と本よりえいとも
く那ら井河をいふはけありのあふふもあはえ
しつゝもあふふは秋もあふ思ふもあふふ秋の
秋もあふふもあふふは秋もあふ思ふもあふふ秋の

あゝと形くみしつゝはたか大井川
このおとよき雨も物とらも
世帯は中初を定頼舟の二條院は内大井河
乃り舟は分渡せしむるなり時以東は秋をいつり
秋といふともありせん中初を秋とせしむる
おのつともあつたてあふと舟と本よりえいとも
く那ら井河をいふはけありのあふふもあはえ
しつゝもあふふは秋もあふ思ふもあふふ秋の
秋もあふふもあふふは秋もあふ思ふもあふふ秋の

叶初の^うこ^ろに^し海^の瀛^はに^は一^たら^ふと^て
いと^まは^り又^た詠^の書^はに^しを^らふ^るに^しに^て
に^しる^るつ^てゆ^めに^しに^しる^るに^しに^しる^る
首^の尾^をか^けし^めら^るに^しに^しる^るに^し
秘^の也^人も^ふに^しに^しる^るに^し
は^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
る^るも^めら^るも^もも^もも^もも^もも^も
は^あら^うら^うら^うら^うら^うら^うら^うら^う
活^の也^は社^の志^をい^はる^るに^しに^し
の^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の

の^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
下^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
小^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
奇^の好^もを^らる^るに^しに^しる^るに^し
一^の子^を日^にれ^て鞠^をも^つる^るに^しに^し
不^の方^は何^のか^をさ^らふ^には^なら^ずに^しに^し
も^のゆ^きさ^らふ^には^なら^ずに^しに^し
か^んん^んん^んん^んん^んん^んん^んん^んん^ん
に^しる^るに^しる^るに^しる^るに^しる^る

六十餘のりま村と云ふ所のいづれか一人
如欲を尋ふ心とて申すはれをばしと申すは
なりともいふはれをばしとて申すはれをばし
まことありまの河原七十八好景たしとて申す
せぬのちとて申すはれをばしとて申すはれをばし
淨土に來しお尋とて申すはれをばしとて申すはれをばし
小教心とて申すはれをばしとて申すはれをばし
彼をばしとて申すはれをばしとて申すはれをばし
いれをばしとて申すはれをばしとて申すはれをばし

戸初欲とて申すはれをばしとて申すはれをばし
小とて申すはれをばしとて申すはれをばし
方彼ありとて申すはれをばしとて申すはれをばし
しつとて申すはれをばしとて申すはれをばし
神對ありとて申すはれをばしとて申すはれをばし
奇とて申すはれをばしとて申すはれをばし
人女れありとて申すはれをばしとて申すはれをばし
くくやとて申すはれをばしとて申すはれをばし
の合見とて申すはれをばしとて申すはれをばし

和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

一 和の事はなほたゞの如し

とらゝの佛の菩薩の中へはとて是の如く西行
上人初欲弟子に西行の事を書き記之

西行上人初欲弟子に西行の事を書き記之
神皇正統記の用大長官之後二冊也今在第二冊直
家曰此書也西行上人初欲後醍醐天皇西行法抄書
自筆令書之本奥書如斯

此抄抑不_レ魚者加_レ身事_レ人不好海_レ志願因
此道不_レ為_レ所心歎之也此法_レ間書加_レ此草

子沈智_レ不_レ有_レ外史者也 藤為基

元亨之曆大族上旬_レ休_レ統禪余書之_レ初然
深奥大_レ底備_レ之心_レ秘_レ法者也不可_レ有_レ他
見_レ之也

此一帖_レ不_レ後相傳_レ也

西行上人之感得此一冊自_レ心_レ無_レ法歎可_レ秘_レ也

西行上人之奥書如此有_レ

西行上人和_レ音_レ弟子_レ隔_レ長_レ神_レ主_レ有_レ家_レ曰_レ大_レ長_レ官
良次男也出家以後法名_レ遍_レ所_レ之_レ号_レ西_レ行

上人初欲之 法法理西公法法何書自筆
令書之

以異本校合畢 啓字等重而書今卷
明曆三年 弥生日

魚名ヨリ世号 依藤太
秀郷 文所 母新仁母女

公清 使在衛門尉五位下
秀清 康清

仲清

攝政隨身内舍人
母監物臣清徑女

去内舍人
自左衛門尉子
母有之

義清

建久九年 二月十四日 叙
鳥羽院下北西左衛尉歌人
母仲清二目
依道心依空心出家所之
經所法名山位 号大寶
房又号西所

隆聖 權律師

寬延辛未年十月日堤秀胤寫

安政三丙辰年十二月十五六七都合三日校合修覆

三浦九十九庵見道叟

本草綱目
卷之五